

2024年度 入試の 出題傾向

地理

学校法人 河合塾 地理講師 佐藤 裕治

1 はじめに

2024年度入試は地理A、地理Bでの最後の出題の年であったが、その問題の分析から来年度以降の新しい課程のもとでの入試の傾向を読み取ってみたい。4年目となった共通テストは、「地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察する」という問題の作成方針に基づき、複数の資料から思考力・判断力を試す形式は定着したといえる。来年度以降の共通テストは『地理総合、地理探究』か『地理総合、歴史総合、公共』のいずれかを選択しなければならないので、地理総合は必須となる。また、国公立大学二次試験や私立大学個別入試では、入試科目に地理総合を含まない大学もあるが、地図と地理情報や防災など地理総合の学習内容を盛り込んだ出題は可能と思われる。

2 共通テストの出題傾向

◆出題分野と全体の難易度

地理B（本試）は大問5題で、第1問「自然環境と自然災害」、第2問「資源と産業」、第3問「都市と生活文化」、第4問「地誌」、第5問「地域調査」と、共通テストに移行してから大きな変化はなかった（表1）。第2問は、鉄鋼業を手がかりに製造業の高付加価値化や新しい取り組みなどが、地理の授業の探究という場面設定で出題された。第4問の地誌は環太平洋という広範な地域を扱ったことで、特定の地域について多様な事象を相互に関連づける地誌の考察はやや希薄であった。第5問の地域調査は島根県浜田市を取りあげ、多様な資料を扱っているが、地域についての知識がなくても判読が可能で、取り組みやすい内容であった。

全体のマーク数、問題冊子のページ数、図表、写真などの資料の数（表2）はこれまでとほぼ変わらないが、複数の資料を判読する組み合わせ解答がやや減ったこともあり、全体としては難易度はやや低下し、地理歴史、

公民の科目の中では平均点が最も高く、高得点者の割合も過去3年で最も高かった（本誌 p.2）。

河合塾の再現答案によるデータ（表3）によれば、正答率が30%を下まわる問いが3問ある一方、正答率が

表1 地理B（センター試験本試・共通テスト本試）
出題分野別一覧

	2020	2021		2022	2023	2024
		第1日程	第2日程			
地図と地理的技能						
地理情報と地図				○		
地図と地域調査	◎	◎	◎	◎	◎	◎
自然環境	◎	◎	◎	◎	◎	◎
地形	○	○	○	○	○	○
気候	○	○	○	○	○	○
植生・土壌	○	○	○	○		
自然災害	○	○	○	○	○	○
環境問題		○	○	○	○	
資源と産業	◎	◎	◎	◎	◎	◎
農業	○	○	○	○	○	
林業・水産業	○	○		○	○	
エネルギー・鉱産資源	○			○		○
資源・エネルギー問題				○		
工業	○	○	○	○		○
第3次産業	○	○	○			
交通・通信	○	○	○	○	○	○
貿易・直接投資・援助	○	○	○	○	○	
人口、村落・都市	◎	◎	◎	◎	◎	◎
人口	○	○	○	○	○	
村落・都市	○	○	○	○	○	○
都市・居住問題	○	○	○	○	○	○
生活と文化、民族・宗教						
文化・衣食住	○					
言語・宗教	○					○
民族・国家		○				
地誌	◎	◎	◎	◎	◎	◎
比較地誌	●			○	○	○
アジア	●		●		●	
アフリカ						
ヨーロッパ						
C I S						
北アメリカ		●				○
南アメリカ	●			●		○
オセアニア	●			○		○
日本						○
複合地域						●
平均点	66.4	60.1	62.7	59.0	60.5	65.7

◎大問のテーマ ●地誌の大問で取りあげられた地域 ○小問のテーマ・地域

表2 共通テストの解答形式と素材形式

	地理A					地理B				
	センター試験	共通テスト				センター試験	共通テスト			
	2020年	2021年*5	2022年	2023年	2024年	2020年	2021年*5	2022年	2023年	2024年
正誤文判定*1	11	9	8	8	6	7	7	5	5	7
組み合わせ解答	12	18	20	18	20	11	20	19	19	16
図 (内地形図*2)	22 (2)	24 (4)	29 (2)	26 (2)	30 (4)	28 (1)	27 (2)	31 (1)	32 (1)	32 (1)
表	3	4	4	4	2	8	5	6	4	3
写真*3	3 (9)	8 (13)	5 (9)	8 (18)	3 (7)	1 (1)	3 (7)	2 (4)	2 (3)	3 (8)
ページ数*4	28	32	32	32	32	34	34	34	34	34
マーク数	34	30	30	31	30	35	32	31	31	30
平均点	54.51	59.98	51.62	55.19	55.75	66.35	60.06	58.99	60.46	65.74

図・表・写真の数は、問題中のそれぞれの番号の合計に、資料として示されたものを加えた。
 *1 組み合わせ形式の正誤文判定を含む。*2 地勢図、地理院地図を含む。*3 かつこ内は写真の枚数を示す。*4 空白のページは含まない。
 *5 第1日程。

表3 再現答案による設問別正答率 (河合塾調べ)
(2024年度大学入学共通テスト地理B 本試)

問題番号	解答番号	正答率	問題番号	解答番号	正答率
第1問	1	42.2	第4問	19	26.9
	2	69.4		20	85.5
	3	55.1		21	69.2
	4	18.2		22	76.9
	5	65.9		23	59.2
	6	24.9		24	75.9
	小計	45.6		小計	63.8
第2問	7	89.7	第5問	25	49.6
	8	38.3		26	77.6
	9	71.1		27	65.9
	10	72.3		28	93.8
	11	87.8		29	75.2
	12	96.1		30	94.3
	小計	75.5		小計	75.6
第3問	13	93.1	合計	68.1	
	14	88.7	注) サンプル数は2173人 (現役生1756人、高卒生417人)。 サンプルの平均点は68.1で、 地理B受験生全体の平均点(65.7) より2.4点高い。 大問ごとの小計、合計は得点率を 示す。		
	15	74.6			
	16	69.4			
	17	85.9			
	18	66.8			
	小計	80.2			

90%を超える問いも4問あり、平易な問題と難問を組み合わせることで平均点のバランスをとっていると思われる。4択にもかかわらず正答率が18.2%という極端な難問や、最上位層(後述のSレベル)でも正答率が60%を下まわる問いもあり、満点は取りにくかったと思われるが、例年みられた「世界史Bや日本史Bに比べると地理Bは平均点が高くても高得点を取りにくい」という科目間の不公平感はやや薄らいだといえる。

大問別でみるとやや得点率のばらつきがあり、第1問の「世界の自然環境と自然災害」は気象に関する問4、問6の正答率が低かったこともあり、大問の得点率は45.6%と最も低かった。一方、大問の得点率が80.2%と最も高かったのが第3問の「都市と生活文化」で、日本の都市に関する問1、問2では取りあげられた地域がイメージしやすいように配慮されていることもあり、判定は容易で正答率が高かった。第2問の「資源と産業」、第5問の「地域調査」も得点率は75%を超えていた。

とくに日本の資源や産業をめぐる新しい取り組みに関する第2問問6の正答率は96.1%と全問中最高で、間違えようのない問題であった。第4問の「環太平洋の地域」では、知識が不十分であったと思われる問1の海底の断面図に関する問題や、見慣れない図で判読に手間どったと思われる問5の貿易に関する問題は正答率がやや低く、大問の得点率は63.8%と全体の正答率に近く標準的であった。

◆正答率の低い問題からみた受験生の弱点

共通テスト地理B(本試)で正答率が最も低かった第1問問4(例題1)の正答率は18.2%で、ムンバイを③と判断したものが多かった。日照時間については教科書でもほとんど扱われておらず、多くの受験生はその正確な意味を理解していないと思われる。日照時間は昼の時間と関係すると考え、最も低緯度にあり、夏と冬の昼の時間の差が小さい③をムンバイと考えた受験生が多かった(表4)。図には東京が示されており、東京は昼の時間の長い7月より昼の時間の短い1月の方が日照時間は長いことが読み取れ、日照時間は昼の時間の長さではなく、晴れる日が多いかどうかの影響していることを判断する手がかりが与えられているにもかかわらず、それには気づかなかつたようである。日照時間の季節変化に関しては2013年度センター試験地理B第6問問2でも、徳島市、会津若松市、宮古島市の月別日照時間のグラフを示し、その正しい組み合わせを答えさせる問題が出題されたが、多くの受験生は冬でも日照時間が長いものを最も低緯度にある宮古島市と判断し、正答率はわずか11.9%であった。なお今回は、全体の正答率は低かったものの、レベル別にみると、最上位層のSレベルとそれにつぐAレベル、Bレベルでそれぞれ正答率は20ポイント以上開いており(表5)、とくに上位層の識別力にすぐれた問題であった。

ついで正答率が24.9%と2番目に低かったのが第1問問6(例題2)で、日本国内の気象観測項目の最大

記録上位 20 位までの地点の分布図で、最高気温、最大風速、日降水量の組み合わせを答えさせるものであった。選択肢のマーク率（表 6）をもとに各項目ごとの正答率を求めると、最大風速は 44.2%、日降水量は 38.8%、最高気温は 36.2% で、最高気温の正答率が最も低かった。近年は関東内陸や東海内陸の記録的猛暑が報道されることが多く、ツを最高気温と判断するのは難しくはなかったと思われたが、新潟県にも多いことが判断を鈍らせたようである。フェーン現象による日本海側の異常高温はあまり知られていないと思われる。気候区分や気候の成因などに比べ、教科書での記載や出題例も少ない身近な地域での気象現象の方が受験生にとっては難しいのかもしれない。共通テストでは「社会や日常の中から課題を発見し解決方法を構想する」ことが重視されており、このような日本の気象に関しても防災などに関連する事象として関心をもって情報に接することが求められている。

◆複数の資料から思考力を試す問題

共通テスト地理 A 第 1 問 問 4（例題 3）は「地図の読み取りと活用」というテーマで出題されたもので、3 地域の地理院地図から土地利用の特徴を判読し、それぞれの地域の 5 月、8 月、11 月の光合成の活発度を示すグラフとの組み合わせを答えるもので、市街地は年間を通して光合成の活発度が低いことからク、水田は作物の成長期に光合成の活発度が高くなることからキ、森林

《正答率の低い問題》

表 4 共通テスト地理 B 第 1 問 問 4 4 例題 1 のマーク率

	①	②	③	④
上位層	8.5	15.7	44.2	31.5
中位層	14.8	25.8	47.5	11.7
下位層	17.7	26.8	47.3	7.8
全体	13.1	22.2	46.2	18.2

※偏差値：上位層 55.0 以上、中位層 45.0～54.9、下位層 44.9 以下。
※赤字が正解。

表 5 共通テスト地理 B 第 1 問 問 4 4 例題 1 のレベル別正答率

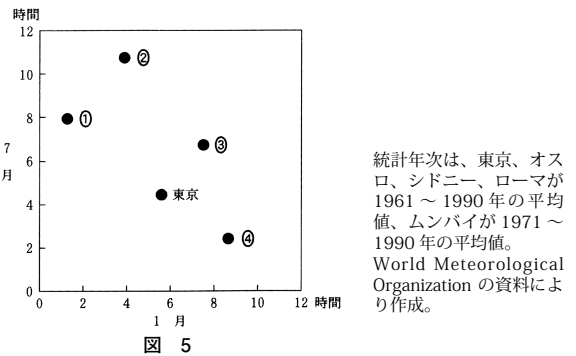
	レベル	偏差値	正答率
上位層	S	65.0～	62.8
	A	60.0～64.9	40.6
	B	55.0～59.9	19.0
中位層	C	50.0～54.9	12.8
	D	45.0～49.9	10.1
下位層	E	40.0～44.9	5.9
	F	～39.9	10.0

表 6 共通テスト地理 B 第 1 問 問 6 6 例題 2 のマーク率

	①	②	③	④	⑤	⑥
上位層	18.3	12.0	15.3	4.4	37.0	13.0
中位層	27.6	14.5	22.2	5.7	18.7	11.0
下位層	32.9	16.2	20.9	5.3	15.6	9.1
全体	25.3	13.9	19.3	5.2	24.9	11.3

■例題 1 共通テスト地理 B 本試：第 1 問 問 4 4

問 4 世界の各都市の日照時間は、都市が位置する緯度や気候によって異なる。次の図 5 は、いくつかの都市における 1 月と 7 月の 1 日当たりの日照時間を示したものであり、①～④は、オスロ、シドニー、ムンバイ（ボンベイ）、ローマのいずれかである。ムンバイに該当するものを、図 5 中の①～④のうちから一つ選べ。 4



■例題 2 共通テスト地理 B 本試：第 1 問 問 6 6

問 6 次の図 7 は、日本国内の 1976 年から 2021 年における、いくつかの気象観測項目の最大記録が上位 20 位までの地点を示したものであり、凡例タ～ツは、最高気温、最大風速、日降水量のいずれかである。項目名とタ～ツとの正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 6



	①	②	③	④	⑤	⑥
最高気温	タ	タ	チ	チ	ツ	ツ
最大風速	チ	ツ	タ	ツ	タ	チ
日降水量	ツ	チ	ツ	タ	チ	タ

は地図から針葉樹が多いことが読み取れ、常緑樹なら年間を通して光合成の活発度が高いカと判断できる（正解⑥）。基本的な仕組みがきちんと理解できていれば難しい問題ではないが、地形図から景観の季節変化を読み取り光合成の活発度の季節変化と結びつけるには思考力が必要であり、よく考えられた問題である。来年度以降の共通テストの地理総合の問題ではこのような出題が予想される。

3 国公立大二次・私大の出題傾向

◆初見の資料から思考力と表現力を問う

国公立大学の中でも東京大学や一橋大学は、知識よりは思考力をためそうとする問題が多く、受験生にとっては初めて見るような資料をもとに限られた時間の中で、

問4 衛星画像の分析により、光合成の活発度*を調べることができ。次の図4は、日本のある自治体のいくつかの地区を示した地理院地図である。また、後の図5中のカ〜クは、図4中のD〜Fのいずれかの地点における5月、8月、11月の光合成の活発度を示したものである。D〜Fとカ〜クとの正しい組合せを、後の①〜⑥のうちから一つ選べ。 4



図4 地理院地図により作成。

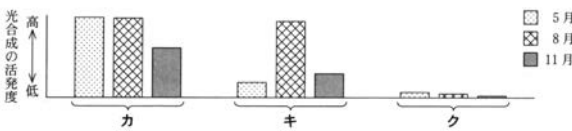


図5 USGSの資料により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
D	カ	カ	キ	キ	ク	ク
E	キ	ク	カ	ク	カ	キ
F	ク	キ	ク	カ	キ	カ

資料の示す意味を読み取り、設問内容に対して的確に表現する力が問われ、難問ではあるが工夫された問題が多い。

東京大学第1問設問Aは、乳をそのまま飲用できるかどうかにかかわる乳糖耐性を持つ人の割合が、地域によって異なることを示す分布図をもとに、その背景を自然環境や伝統的農牧業や作物の栄養特性から考えさせたり、乳糖耐性が低いにもかかわらず乳製品の利用が多いモンゴルについて、その加工の方法を答えさせている。初見でも資料の意味を考慮することができれば解答は可能で、思考力をはかるよく工夫された問題である。

一橋大学Ⅲ(例題4)は、東京都市圏パーソントリップ調査をもとに、人の移動や生活の変化、公共交通機関利用の違いや交通システムの抱える課題や解決策を考えさせる問題である。受験生は見たことのない資料に戸惑うが、資料の意味を的確に読み取り、若者はオンラインショップの利用やSNSの普及などにより外出率が低下し、高齢者は病院通いなどにより外出率が上昇していることや、最近の公共交通での運転手不足など、身近に生じている生活行動の変化や社会問題に、日常からきちんとアンテナを張って考えることができていると、正解は可能である。一橋大学の「求める学生像」には「社会が直面する課題に関心をもつ」ことがあげられており、入試問題にも大学のアドミッションポリシーが明確に示されている。

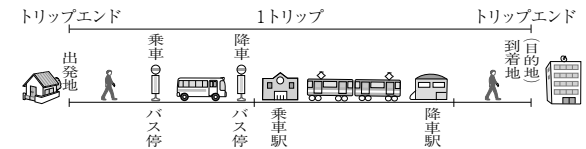
◆探究学習の導入につながる工夫

オリンピックが開催されるとオリンピックにからめた

パーソントリップ調査は、人(パーソン)の1日の移動(トリップ)を把握する調査であり、将来のまちづくりや交通計画などを検討するための基礎資料を得ることを目的としている(図Ⅲ-1)。特に東京都市圏(東京都(島しょ部を除く)、神奈川県、埼玉県、千葉県)の全域および茨城県南部)では、10年に一度の間隔で実施されている。

また、こうした人の移動に関するデータは、地理空間情報との連携による活用が期待されている。政府は地理空間情報活用推進基本計画を策定している。産学官民が連携した多様なサービスを提供することにより、(1)交通分野においても喫緊の課題に対して、地理空間情報を活用した豊かな暮らしの実現を目指している。

図Ⅲ-1 トリップの概念図



注1: トリップ(トリップ数)とは、人がある目的をもって、出発地から到着地へと移動する単位のこと、1回の移動で複数の交通手段を経由しても1トリップと数える。なお、出発地は、自宅や勤務先などの場合もある。

注2: 出発地と到着地(目的地)を、この調査ではどちらもトリップエンドとよぶ。

出所: 東京都市圏交通計画協議会「東京都市圏パーソントリップ調査(第6回)」より作成。

問1 表Ⅲ-1について、次の年齢階層3区分、①19歳以下、②20歳〜39歳、③65歳以上、それぞれの調査結果が示す傾向を要約しなさい。解答は①…、②…、③…としなさい。続けて、その傾向がもたらした生活スタイルの変容について、説明しなさい。なお、外出率=G、1人1日当たりのトリップ数=Tと略してもよい。(150字以内)

問2 表Ⅲ-2中の(A)に該当する政令指定都市名を答えなさい。1マス空け、東京都市圏における公共交通機関の利用が多い地域と少ない地域では、それぞれ人の移動をめぐってどのような課題があるか説明しなさい。その際、表Ⅲ-2中のいくつかの地域を比較しながら答えなさい。(125字以内)

問3 下線部(1)について、交通システムが抱える喫緊の課題を言及し、地理空間情報の活用やモビリティ・アズ・ア・サービス(MaaS)の導入によって、どのような効果が期待できるか論じなさい。(125字以内)

注: モビリティ・アズ・ア・サービス(MaaS)とは、情報通信技術(ICT)を最大限に活用して、電車やバス、タクシーなどあらゆる公共交通機関の運行を効率化するものである。

表Ⅲ-1 東京都市圏の年齢階層別外出率および1人1日当たりのトリップ数の推移

年齢(歳)	G: 外出率(%)				T: 1人1日当たりのトリップ数			
	1988年	1998年	2008年	2018年	1988年	1998年	2008年	2018年
85~	18.9	25.4	35.0	33.6	2.30	2.33	2.45	2.44
80~84	32.6	40.1	53.6	51.8	2.42	2.46	2.69	2.68
75~79	43.6	52.3	65.2	60.5	2.53	2.58	2.85	2.79
70~74	50.6	61.7	74.0	64.9	2.62	2.70	2.98	2.82
65~69	60.7	70.9	81.3	68.2	2.72	2.80	3.04	2.79
60~64	69.2	77.9	85.1	75.8	2.76	2.84	2.98	2.65
55~59	79.2	85.5	88.8	80.8	2.74	2.80	2.90	2.60
50~54	83.6	88.0	90.4	81.4	2.81	2.86	2.87	2.62
45~49	86.7	89.9	91.2	82.6	2.88	2.92	2.93	2.65
40~44	88.4	91.1	91.2	82.8	2.99	3.05	3.00	2.71
35~39	89.4	91.6	90.7	81.3	3.13	3.19	3.01	2.73
30~34	89.8	90.3	90.1	81.1	3.21	3.07	2.85	2.62
25~29	89.7	88.6	89.8	80.3	2.95	2.76	2.65	2.46
20~24	91.2	88.0	89.4	78.2	2.70	2.58	2.48	2.32
15~19	95.5	93.5	95.4	90.2	2.42	2.40	2.41	2.29
10~14	99.1	98.4	98.3	95.9	2.71	2.63	2.70	2.49
5~9	97.9	97.9	98.5	95.3	2.79	2.76	2.81	2.50
合計	85.4	85.3	86.4	76.6	2.83	2.82	2.84	2.61

注1: 外出率とは、調査日に外出した人の割合である。
注2: 1人1日当たりのトリップ数とは、外出した人1人の1日トリップ

数の平均を示している。

出所：東京都市圏交通計画協議会「東京都市圏パーソントリップ調査（第3回～第6回）」より作成。

表Ⅲ-2 東京都市圏の代表交通手段別割合とトリップエンド数（2018年）

地域	鉄道 (%)	バス (%)	自動車 (%)	二輪車 (%)	自転車 (%)	徒歩 (%)	その他 (%)	トリップエンド数
東京区部	50.9	3.0	8.0	0.8	13.2	24.0	0.1	45,184,594
川崎市	39.2	4.3	13.8	1.5	14.1	27.0	0.1	5,136,013
(ア)	37.3	5.8	20.2	2.2	7.2	27.3	0.1	13,085,811
千葉市	27.0	2.9	34.9	1.1	10.8	23.2	0.1	3,601,948
埼玉北部	12.7	0.8	58.7	1.1	10.8	15.8	0.2	7,787,840
千葉西南部	8.6	1.0	69.8	0.9	5.9	13.6	0.3	2,054,003
茨城南部	6.7	1.1	70.9	0.7	8.3	12.0	0.2	5,569,461
千葉東部	5.9	0.6	74.9	1.0	7.2	10.3	0.0	2,574,899

注1：1トリップでいくつかの交通手段を乗り換えた場合、そのなかの主な交通手段のことを「代表交通手段」とよび、集計上の優先順位は、鉄道、バス、自動車、二輪車、自転車、徒歩の順となる。

例) 自宅から駅まで自動車で移動し、駅から鉄道で勤務先へ行く場合の代表交通手段は「鉄道」となる。

注2：トリップエンドとは、図Ⅲ-1の出発地と到着地（目的地）を表す。

例) 出発地が東京区部に到着地が川崎市の場合、トリップエンド数は東京区部が1となり、川崎市が1となる。

注3：代表交通手段別割合をたすと100%になる。

出所：表Ⅲ-1に同じ。

入試問題が多くなる。さまざまな国際的イベントを通して、地理に対する生徒の関心を高めたいというのは、地理教育にかかわる人たちに共通する思いではないか。

表7に示すように、私立大学では大相撲、サッカー、野球、陸上競技で活躍する選手や国、人気漫画やアニメの舞台となった地域に関する問題がかなりみられる。しかし、設問の内容はほとんどが知識を問う問題で、愛知大学の「大相撲でモンゴル出身力士が活躍する背景」を考えさせる問題以外は思考力を問う形になっていないのは、マーク式問題の限界でもある。

学習院大学の問題は、とうとう入試問題にも生成AIによる問題文が登場した「画期的」な問題である。生成AIが作成したのは問題文だけで、設問はその文章中の下線部に関する地理的知識を問う形式をとっている。また、「地理情報を得る上で生成AIを使うときの留意点」を論述させているが、生成AIの作った文章そのものに留意点を考える手がかりが示されているわけではなく、

一般的に言われている問題点を指摘させるにとどまるとすれば、やや安直な作問ということになる。地理の探究学習において生成AIをどう考えるかも含め、議論されるべきであろう。

◆GISやハザードマップを使った問題

表8に示した北海道大学と近畿大学の問題では、ともにGISを使ったさまざまな地図を示し、集落や避難所の立地などについて出題しているが、北海道大学が色刷りの地図を使っているのに対し、近畿大学はグレースケールの濃淡やモノクロのパターンで示している。教科書は多色刷りで、WebGISや実際のハザードマップの活用でも、カラーの地図で学習する機会が多い中で、共通テストを始め、多くの入試問題では図版はモノクロで示されている。すでにカラー図版を使用している大学がある以上、入試問題でもカラーへの対応を検討することを期待したい。なお、帝国書院の教科書や資料集ではQRコードを読み取ってWebGISにアクセスし、さまざまな地図の読み取りの演習ができるので、ぜひ活用したい。

4 論述問題の形式・テーマと対応策

国公立大学の二次試験ではいずれも論述問題が課されるが、全体の分量、設問ごとの字数は大学によってかなり異なる（表9）。論述問題の内容は、単純な用語の説明もあるが、分布図や国・地域ごとの統計資料をもとに地理的事象の地域的な違いの要因に関する問題や、経年変化を示す図表を用いて変化の背景を説明させる問題など、資料の判読と論理的思考力、簡潔な表現力をためすものが多い。こうした論述問題への対策としては、ふだんからさまざまな資料をもとに考える力を養うことが重要で、入試問題でも扱われるさまざまなテーマに関する図表をコンパクトに解説した『新詳地理資料COMPLETE』が役に立つ。

表7 国や地域の導入部に受験生の関心をひく工夫が見られた問題（2024年度）

大学・問題番号	テーマ・イベント	設問内容
愛知大学 (2/5実施)Ⅲ	大相撲の 外国出身力士	外国出身力士の出身国の地誌的知識を問う。モンゴル出身の力士の活躍の背景にあるモンゴルの地理的社会的な特徴を論述させる。
国士舘大学 (2/4実施) 第3問	サッカー ワールドカップ 2022	A～Hのグループリーグごとに全参加国・地域を示し、各グループの国に関する地誌的知識を問う。
明治大学 (2/5実施)Ⅱ	ワールドベースボール クラシック 2023	1次ラウンドから決勝までの全参加国・地域の組み合わせを示し、1次ラウンドの各プールの国・地域や、勝ち残った国・地域に関する地誌的知識を問う。
東洋大学 (2/9実施)Ⅰ	東京2020オリンピック 競技大会	陸上男子3,000m障害物決勝に進出した選手が代表した14か国を地図で示し、それらの国に関する地誌的知識を問う。
国士舘大学 (2/1実施) 第4問	地球の歩き方・ジョ ジョの奇妙な冒険	荒木飛呂彦作「ジョジョの奇妙な冒険」の第1部～第8部のルートを図に示し、各ルート上の地域の地誌的知識を問う。
学習院大学 (2/6実施)Ⅰ	生成AIによる 文章	生成AIによる「シドニーからパースまでの鉄道旅行で見える景色」の文章に登場する地域や事象に関する知識を問う。地理情報を得る上で生成AIを使うときの留意点を論述。

表 8 GIS・ハザードマップに関する問題

大学・問題番号	設問内容
北海道大学 I	地形図から断面図を作成、土地利用図から人工的に造成された土地（田と工業地）の土地造成の違いを述べる、地理院地図の標準地図と色別標高図から土地条件図の凡例を判定、重ねるハザードマップ（洪水の浸水想定区域、津波浸水想定地域）の判読など。図はいずれもカラー。
近畿大学 (3/9 実施) III	4つの地域概観図（「基盤地図情報」、「国土数値情報」をもとに作成）の判読に関する正誤の判定や語句の選択、図中の地点間の地形断面図選択、4地点からみた陰影起伏図の判定、4地点の地形区分と避難場所の分布図（「国土数値情報」、「全国指定緊急避難場所データ」などをもとに作成）と地域区分の面積・避難場所の数を示した表の正しい組み合わせの判定など。図はいずれもモノクロ。

表 9 国公立大二次の論述問題の分量とテーマ：その 1（2024 年度）

	論述 問題数	総字数	1題あたり 平均字数	テーマ（設問内容）
北海道大学	14	1250 字程度	90 字 程度 60～ 150	▶ 20 万分の 1 土地利用図から、人工的に造成された二つの土地の造成の違いを述べる。▶ 東京都の西部や大阪府の北方にある丘陵地の地形と土地利用の特徴を説明。▶ 二つの地域の「重ねるハザードマップ」の洪水浸水想定区域の地図から、洪水を避けるために集落がどのような土地に立地しているかを述べる。▶ アフリカの一部地域で信仰が認められるアニミズムを説明。▶ 1950 年代から 1960 年代にかけてアメリカ合衆国で生じた公民権運動を説明。▶ 日本で 1990 年代に全在留外国人に占める南米系国籍者の割合が増加した背景・理由を説明（指定語句：入管法、日系人）。▶ 図中の C 国（インド）の季節風の特徴を説明。▶ 図中で四角に囲まれた地域（カシミール地方）の国境線が点線で示される理由。▶ C 国（インド）で ICT 産業が盛んになった理由。▶ デカン高原における農業の特徴を土壌などの自然条件と結びつけて説明。▶ アトラス山脈の南側斜面と北側斜面における農業の特徴を説明。▶ 世界遺産条約の目的を説明。▶ AU（アフリカ連合）の目的を説明。▶ 「アラブの春」はどのような運動かをその発端となった政変に言及して説明。
筑波大学 (生物資源学 類、地球学 類)	4	900 字	225 字	▶ 外国地形図読図 [19 世紀末にスイスで撮影された氷河の写真の撮影地点を現在の地形図に示された 3 地点から選び、その理由を説明。写真と地形図から 19 世紀末から 21 世紀初頭にかけての氷河の形状の変化とその原因を説明]。▶ 地球の模式図に 3 つの恒常風の向きと 4 つの気圧帯の位置を記入し、気圧帯と恒常風との関係を説明。▶ インドネシアの人口推移（1960～2021 年）を都市地域と農村地域別に示した図を参照して、インドネシアの人口変化と大都市にみられる特徴を説明（指定語句：工業化、交通渋滞、首都移転計画、人口移動、スラム）。
筑波大学 (生物資源学 類、地球学 類以外)	4	1600 字	400 字	▶ 地形図読図 [1952 年と 2017 年の「白井」の 2 万 5 千分の 1 地形図を読み、集落立地、土地利用、およびそれらの変化を地形の特性と結びつけながら説明]。▶ 日本の 4 つの都市（仙台、東京、大阪、福岡）と 10 都市平均の 1927 年から 2022 年までの日最高気温および日最低気温の年平均値の長期変化傾向を示した表をもとに、都市の気温の長期変化傾向の特徴と考えられる要因を説明。▶ ヨーロッパの大都市の都心やその周辺地区でみられる建造物の更新例を示した写真を参考に、ヨーロッパの都市問題を説明（指定語句：インナーシティ、居住者、ジェントリフィケーション、地価）。▶ オーストラリア、カメルーン、日本、バングラデシュの主な穀物と肉類の生産量、輸入量、国内供給量を示した表から、国名を判定し各国の食文化や食料自給にみられる地域的特徴とその背景・課題を説明。
東京大学	17	990 字	60 字 30～90	▶ 世界の成人における乳糖耐性者の割合を示した分布図をもとに、西アフリカ、アラビア半島から南アジアにかけての地域で乳糖耐性者の割合が高い共通する理由を説明（指定語句：適応、気候、飲用）。▶ モンゴル人は乳糖耐性者の割合は高くないにもかかわらず、夏場の摂取カロリーの 3 分の 1 以上は乳由来であるが、どのような加工で乳糖を減らしているかを説明。▶ 東南アジアでは乳糖耐性者の割合が低く、乳と乳製品が利用されてこなかった。その理由を主食穀類の栄養成分比較表を参考に説明。▶ 世界の地域別天然ガス年間生産量の推移を示した図と、天然ガスの地域間の輸出・輸入量をパイプラインによる輸送と LNG としての輸送に分けて示した図を参考に、日本のエネルギー資源確保の観点からみた天然ガスの特徴を石油と比較しながら述べる。▶ 深海底が将来の世界の経済に大きな影響を与えると考えられている理由を述べる。▶ 大陸別の平均地形断面を示した図から、各大陸を判定した上で、ア大陸（アジア）が標高の高い土地の割合が高い原因となっている大地形の特徴を述べる。▶ 標高 500 m 以下の陸地面積比率が大きい E（ヨーロッパ）とオ（オーストラリア）で、そこでの土地利用・土地被覆の特徴が大きく異なっていることについて、相違が生じた理由とともに述べる。▶ 2020 年時点で人口が 1 億を超える 14 か国の人口規模と 1960～2020 年の人口変化率を示した表をもとに、人口規模 2 億～3 億台の国のうち E 国（ナイジェリア）の人口変化率の推移と、人口と経済に関わる社会状況の推移をケ国・コ国（ブラジル・インドネシア）と比較しながら説明（指定語句：経済発展、生活水準）。▶ 人口規模 10 億以上の 2 か国（中国・インド）の人口変化率の推移にみられる差異とその背景を説明。▶ 1960～1980 年の人口変化率が 20% 台の低水準にあった 2 か国（アメリカ合衆国・日本）のその後の人口変化率の推移にみられる差異とその背景を説明。▶ アメリカ合衆国のニューオーリンズに関する文章から都市名を判定した上で、この都市が港湾都市として栄えた理由をミシシッピ川流域の産業との関係から述べる。▶ 2005 年のハリケーンによる災害が生じた直後と 1 週間後の都市域における人口と自宅の浸水状況をエスニック集団別に示した表を参照し、特定のエスニック集団が顕著に被災し、復興過程でもこの問題が顕在化した理由を述べる。▶ ニューオーリンズ周辺地域では、近年ミシシッピ川の水位が大幅に低下する年があるが、このことが地域の経済活動に与える影響を述べる。▶ 世界の都市圏人口が 500 万を超える都市の地下鉄が開業した年を示した表から、東京と大阪では当時どのような都市圏の問題から地下鉄の建設に踏み切ったと考えられるかを説明（指定語句：路面電車、密度）。▶ ロサンゼルス地下鉄開業が他の欧米の大都市に比べ遅かった理由を説明。▶ 1990 年代以降アジアの大都市で地下鉄を建設する必要が生じた背景にある都市問題を述べる。▶ アジアの大都市で地下鉄の建設が可能になった主な要因を二つ取りあげて説明。
東京学芸 大学	9	1100 字程度	120 字 程度 60～ 400	▶ 世界のサンゴ礁の分布図をもとに図中の A（北緯 40° 付近の日本近海）、B（アマゾン川河口付近）、C（ペルー近海）の海岸域でサンゴ礁がみられない理由を説明。▶ マングローブ林の恩恵について、災害と水産資源の観点から説明。▶ 温暖化によって想定される影響や問題について説明（指定語句：海水、水没）。▶ 離水海岸にみられる海岸段丘の形成過程と特徴について説明（指定語句：波の侵食、地殻変動）。▶ ヨーロッパの地図に示された D（ノルウェー海岸）、E（エルベ川河口とテムズ川河口）、F（スペイン北西部）地域にみられる海岸地形を答え、E 地域の海岸地形は港湾機能に優れた貿易港が発達しやすい理由を、他の 2 地域の海岸地形との違いを踏まえて説明。▶ 日本における大都市圏と地方都市圏の大型店の立地パターンを模式的に示した図をもとに、大都市圏の夕（百貨店）のうち、J（都心・ターミナルに立地）と K（近郊都市に立地）の 2 種類の店舗について、それぞれの取扱商品の特徴とそれが異なる理由を説明。▶ アメリカ合衆国の大都市圏で 1970 年代以降都心部における貧困層の集住や治安の悪化などに伴い進展した「郊外化」に関わる、主な地域変化や事象について説明（指定語句：オフィス、情報化、ショッピングセンター）。▶ アメリカ合衆国の大都市でみられた「都心回帰」に関わる主な地域変化や事象について説明（指定語句：ジェントリフィケーション、職住近接、都市再開発）。▶ 高等学校「地理 B」で学ぶ系統地理的考察と地誌的考察について、それぞれの事象・項目の取りあげ方、考察方法を具体的に示し、特徴や相違点を説明。
一橋大学	10	1200 字	120 字 100～ 150	▶ コロンビアで生産が本格化したバイオエタノールの主な原料作物、主な用途を答え、同国がバイオエタノールの生産に力を入れている理由を、それに密接に関わる国際条約の名称、2015 年に採択された協定の名称を示しながら説明。▶ 米国が 2010 年代にバイオエタノールの輸出を増やした理由を、米国におけるバイオエタノールの需要と供給の関係に触れながら説明。▶ コロンビアのコカ産地の分布図からその地理的分布傾向を指摘しながら、農民がコカを栽培・販売してきた経済的な理由を、内戦下でこの作物の加工販売が反政府勢力の活動資金源の一つとさ

表9 国公立大二次の論述問題の分量とテーマ：その2 (2024年度)

	論述問題数	総字数	1題あたり平均字数	テーマ (設問内容)
				<p>れたことを考慮して説明。▶コカ産地の分布図とコカ栽培面積の推移を表したグラフの示す傾向を踏まえて、内戦が和平合意に達した後コロンビア政府がとった農民に転作奨励金を支給する政策がもたらした結果とその理由について考えを述べる。▶国際的な生産分業における日本の「前方参加」(中間財を生産して輸出)と「後方参加」(中間財を輸入して完成品を輸出)の割合の推移を示した図から、変化傾向を要約し、そうした傾向が生じた理由を説明。▶NAFTA-EU・中国・日本の間の貿易関係と2008年、2009年、2010年の貿易額を示した表をもとに、2008年に始まる世界経済危機から2010年までの間、貿易関係がどのように変化したかを述べ、この時期に日本企業がどのように対応したかを説明。▶日本が国際的な生産分業に後方参加する際に、生産と流通の混乱によって被る問題について、2020年に始まった新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による影響を例に、貿易相手国・地域を示しながら説明。▶東京都市圏の年齢階層別外出率および1人1日当たりのトリップ数(概念図で解説)の推移を示す表から、①19歳以下、②20歳～39歳、③65歳以上についてその傾向を要約し、その傾向がもたらす生活スタイルの変容について説明。▶東京都市圏の地域別の代表交通手段別割合とトリップエンド数を示した表をもとに、公共交通機関の利用が多い地域と少ない地域で、人の移動をめぐってどのような課題があるかを説明。▶交通システムが抱える喫緊の課題を言及し、地理空間情報の活用やモビリティ・アズ・ア・サービス(MaaS)の導入によって、どのような効果が期待できるかを論じる。</p>
新潟大学	7	480～620字	80字 40～140	<p>▶数理的国境などの人為的国境がアフリカ大陸に多く存在し、国家間や国内の紛争の原因の一つとなる理由を説明。▶アメリカ合衆国とメキシコの国境線を挟んで対向する都市を示した衛星画像をもとに、国境線を挟んだ一方の都市の規模が極端に大きい理由を説明(指定語句:工場、国境、労働力)。▶地図中に示した二つの地域(ガラパゴス諸島と小アンティル諸島)に火山が形成される要因を説明(指定語句:沈み込み、ホットスポット)。▶大規模な三角州が発達するナイル川で、近年海岸の後退がみられるようになっている背景を、上流部における開発に言及しながら説明。▶埋立と干拓の土地造成方法の違いについて説明。▶地形図読図 [埼玉県のある地域の電子地形図25000を示し、荒川の右岸と左岸の集落の立地と農地の特徴の違いを説明(指定語句:河岸段丘、自然堤防、氾濫原)／横堤と呼ばれる河川に直角方向に突き出した堤防の治水上の役割を説明]。</p>
信州大学	4	550字	140字	<p>▶1963～1977年に発生したM4.5以上の地震の震央を示した世界地図をもとに、図中の地点(東太平洋海嶺上)付近を境に見られるプレートの動きとその特徴を説明。▶ニュージーランド南島南西部の拡大図をもとに、海岸に見られる特徴的な地形を説明(指定語句:侵食、谷地形、沈水、低海面、氷期)。▶世界各国の合計特殊出生率と死亡率を示した階級区分図をもとに、それぞれどちらかを判断し、その理由およびそれぞれの分布の特徴を説明。▶日本における人口問題について、現状と課題を説明(指定語句:合計特殊出生率、高度経済成長期、社会保障制度、生産年齢人口)。</p>
愛知教育大学	11	1500字程度	135字 程度 60～250	<p>▶赤道付近の恒常風の名称を答え、それが生じる理由を説明。▶北緯30～60度付近の恒常風の名称を答え、大西洋と太平洋の北半球側でこの恒常風がどのような海流を生じさせているかを説明。▶氷山に衝突したタイタニック号の沈没地点の地図を参考に、この付近でなぜ氷山が流れていたかを説明。▶地形図読図 [「四天木」(九十九里浜)の2万5千分の1地形図から、海岸地形がどのように形成されてきたかを説明]。▶エクメーネとアネクメーネ、その境界となりうる極限界・高距限界・乾燥限界を説明。▶西ヨーロッパで多産少死から少産少死へと移行した理由を説明。▶1990～2000年における日本の人口増加幅の大きかった10都市と人口減少幅の大きかった10都市を示した地図と、人口増加10都市と人口減少10都市の就業構造を示したグラフをもとに、人口増加都市と人口減少都市の位置や分布、就業構造の特徴を説明(指定語句:大都市、ベッドタウン、農業、第三次産業)。▶人口移動の「政治的理由」と「強制的理由」の意味を代表的な例を挙げて説明。▶南アメリカ大陸の地図中の線(南緯16度線付近)に沿う地形断面図に該当するものを選び、大陸西部と東部の地形の特色とその成因を説明(指定語句:プレート、変動帯、安定陸塊)。▶地図中の地点(ブラジリア付近)の雨温図を選び、セラードやカンボと呼ばれるイネ科の丈の高い草が茂ったり、低木も点在したりする草原のような植生をもたらす気候的特色を説明。▶アマゾンの熱帯雨林を守るために、日本の人びとができることはどのようなことか、ブラジルから日本への輸出品の構成割合を1995年と2019年で示した図を参考にして、自らの考えを述べる。</p>
名古屋大学	14	1600字程度	110字 程度 60～300	<p>▶地形図読図 [阿賀野川下流域の地理院地図をもとに、集落分布の特徴を地形条件から答える／最も多くを占める土地利用を答え、そのような土地利用になる理由を地形条件から答える／想定される自然災害とその対策を地形の特徴に着目しながら説明]。▶季節によって風向きが変化する大規模な風の名称と、この風が日本列島の日本海沿岸地域の冬季の気候に与える影響を説明。▶日本列島に広く分布する成帯土壌の一つ挙げ、その特徴を説明。▶愛知県庁から県境までの地形断面図に示された地点(県庁から15kmほどの丘陵地)について述べた文章中の「職得分離」について、文章の内容から即して説明。▶旧来の農地を利用して市民農園が開設された理由について、文章の内容に即して説明。▶図中に示された地点(県庁から60kmほどの山間部)について述べた文章中の「限界集落」とはどのようなものかを説明。▶地域活性化の方策として、現在の日本で一般的に取り組みされている事例を2つ例示する。▶人口40万を超える3都市(豊田市、金沢市、豊中市)のいくつかの指標に関する数値を示した表をもとに、それぞれの都市の特徴について相互に比較しながら説明。▶ブラジルの「不毛の土地」と呼ばれている地域が、世界有数の大豆産地に発展した理由を述べる。▶自動車レースのF1の開催地の内、酸素濃度の観点から最も内燃機関に負荷のかかる都市(メキシコシティ)を選び、その都市の大気汚染問題の対策を説明。▶前問で解答した都市(メキシコシティ)と同様の自然条件を有する都市が、低緯度地域で発達した背景を説明。▶アメリカ合衆国の州別のヒスパニック人口割合を示した地図をもとに、ヒスパニックの人口分布の特徴を説明。</p>
京都大学	18	520字程度	30字 程度 20～40	<p>▶ガンジスデルタがジュート工業の原料生産地となった気候上の要因を述べる。▶ジャムシェドプルに製鉄所が建設された立地上の要因を述べる。▶外国資本をひきつける要因となっているインドの人口構成上の特徴を述べる。▶日本の4都市(愛知県春日井市、神奈川県川崎市、東京都中央区、富山県富山市)の人口増減率の推移を示すグラフをもとに、住宅都市の典型例である都市で2000年ごろから高齢化率の上昇が顕著にみられるようになった理由を述べる。▶アメリカやヨーロッパの諸都市で衰退・荒廃した地区の再開発により、流入および流出しやすい住民の特徴を述べる。▶世界における砂漠化の危険性の高い地域を示した図中のD付近(チリ中部)の海岸線に沿った地域で砂漠化の危険性が高い原因を自然条件に着目して述べる。▶ミシシッピ川より西側の肥沃な黒色土壌が成立する地域の植生を述べる。▶図中のB付近(アメリカ合衆国のグレートプレーンズ)で、大規模灌漑の普及による農業の変化が、この地域の牧畜業にもたらした変化について述べる。▶ハブ空港とはどのような空港かを述べる。▶7都道府県の航空輸送の統計データを示したグラフをもとにB(北海道)・沖繩県・福岡県において国内旅客輸送が大きい理由を、航空交通の特性に留意して述べる。▶国際輸送において航空交通が選択される貨物の特徴を述べる。▶感染症の世界的流行により2019年度と比較して2021年度は航空輸送に大きな変動が生じたが、旅客輸送と貨物輸送で顕著な違いがみられた理由を述べる。▶新旧地形図読図 [同じ地域(山梨県南アルプス市)の平成19年と昭和4年の2万5千分の1地形図をもとに、平成19年の図中に広くみられる農業的土地利用が形成された背景として地形のどのような特徴が関連しているかを述べる／昭和4年の図では広くみられた表が平成19年の図ではほとんどみられなくなった土地利用の生産物が、日本で盛んだった工業とどのように関連していたかを述べる／図中の工場周辺がかつてどのような場所であったかを、河川の変化をふまえて述べる／図中の河川内に多数みられる水流と直交するせきの目的を、地形の特徴と河川の水流の状況をふまえて述べる／図中の「徳島堰」が自然の流路ではなく人工的に建設された用水路であることが図中のどのような点に表れているかを2つ述べる／江戸時代に開削された徳島堰は図中の範囲の開発にどのような役割を果たしたのか、地形と農業の観点から述べる]。</p>

表9 国公立大二次の論述問題の分量とテーマ：その3 (2024年度)

	論述 問題数	総字数	1題あたり 平均字数	テーマ (設問内容)
大阪大学	6	900字程度	150字程度 100～200	▶ケッペンの気候区分において、冷帯(亜寒帯)気候はほぼ北半球のみに分布し、冷帯冬季少雨気候(Dw)はシベリア付近にのみ分布する理由を世界地図を参考に説明。▶地図中に示された3地点(内モンゴル自治区西部、図中高原南部、ニジェール西端)に共通する気候および農業の特徴を数物点を少なくとも1つ挙げて述べる。▶图中的地点(アメリカ合衆国グレートプレーンズ付近)の灌漑農業の特徴と問題点を述べる。▶図で示された太平洋北西部の日本近海(東日本の沖合)における好漁場の位置とその要因を、自然環境および経済的・文化的な側面から述べる。▶世界の漁業・養殖業生産量の推移を示したグラフから読み取ることのできる、漁業の種類ごとの傾向と背景を述べる。▶東日本大震災後の被災地の漁業に関わる復興の要点を多面的な視点から述べる。
九州大学	6	1030字	170字 100～220	▶シベリアのレナ川流域で春季にしばしば洪水が発生する理由を述べる。▶都市型水害の特徴と日本における対策の具体例を述べる(指定語句:地下街、マップ)。▶2011年のタイでの洪水では工場が浸水し、東南アジア各国の自動車生産に影響が生じたが、これについてタイ・マレーシア・インドネシアの自動車の生産台数と相互の輸送機械中間財の貿易額を示した図を参考に、東南アジアにおける自動車産業の特徴と洪水によってどのような影響が生じたかを述べる。▶西アジアと中央アジアの自然条件に応じた伝統的な生業活動の特徴を述べる(指定語句:遊牧、オアシス)。▶サウジアラビアの主要農産物の収穫高の変化を示した表を参考に、1970年代以降のサウジアラビアの農業生産の変化とその背景を述べる(指定語句:食料自給率、センタービッド方式)。▶1960年以降大幅に面積が縮小したアラル海について、自然環境の特徴、縮小の背景、それが周辺の地域社会や経済などに与えた影響を述べる(指定語句:塩湖、健康被害、自然改造計画)。
長崎大学	8	800字程度	100字程度	▶モレーンとは何かを説明。▶日本農業における減反とは何かを説明。▶ヨーロッパの4か国(イタリア、ドイツ、フランス、ロシア)の一次エネルギー構成比を示したグラフで再生可能エネルギーに該当するものを答え、そう判断できる理由を説明。▶アジアの4か国(韓国、シンガポール、中国、日本)の1人当たり国内総生産と1人当たり国際観光支出を示したグラフから、シンガポールに該当するものを答え、そう判断できる理由を国際観光支出に注目して説明。▶オーストラリアにおける国外で生まれた住民の出身国・地域の上位9位までの変化を示した表から読み取れることを、背景にある政策の変化を含めて説明。▶地形図読図[北大東島の2万5千分の1地形図から、この島が元はサンゴ礁であったこと、またそれが隆起したことは、図中のどのような点から読み取ることができると、あるいは推測することができるかを説明]。▶アメリカ合衆国で1970～80年代に起こった製造業の大きな変化が、古くから工業の発達のみられる五大湖沿岸から北東部の都市の産業構造や地域にどのような影響を与えたかを説明。▶都市鉱山とは何かを主要な資源名を3つ挙げながら説明。
高崎経済大学(前期)	9	800字程度(推測)	90字前後(推測)	▶地形図読図[長崎の5万分の1地形図に枠で示された2つの範囲における地形と土地利用を比較して、想定される災害リスクを答える/図中に示された造船関連の施設の竣工量が2010年以降減少した理由を説明]。▶4つの都市(熊本市、佐賀市、長崎市、福岡市)の1980年を1とした人口指数の推移を示したグラフをもとに、長崎市の人口が減少している理由を説明。▶水上交通の利点と欠点を答える。▶モーダルシフトを説明。▶コンテナ船の普及が港湾物流にもたらした変化を説明。▶アメリカ合衆国の小麦地帯で栽培される春小麦と冬小麦を説明。▶頁岩層からの天然ガスや原油の産出が本格化しエネルギー事情が大きく変わったことを何とどうかを答え、このような変化が経済や社会に与えた影響を説明。▶情報通信技術がどのような効果と問題を生み出したか説明。
高崎経済大学(中期)	8	700字程度(推測)	90字前後(推測)	▶発展途上国で出生率が高い理由と死亡率が低い理由を説明。▶文章中の下線部の用語(合計特殊出生率、一人っ子政策)をそれぞれ説明。▶地中海性気候の特徴を説明。▶20世紀末に多くのムスリムが暮らす地域でイスラム復興運動が活発化した背景を説明。▶台湾北部のシンチュウ(新竹)が世界的なハイテク産業の集積地となった人的資源に関わる要因を述べる。▶日本におけるセメント、ビール、集積回路、自動車の工場の分布図から集積回路に該当するものを答え、集積回路の工場がそのような分布になる理由を説明。▶日本が中小企業の技術力によって依然として強い国際競争力をもっているのはどのような分野かを述べる(指定語句:基盤技術、試作品、生産設備、金型)。▶コンテンツ産業の立地は一般に大都市圏に集積する傾向があるとされる理由を述べる。
東京都立大学(文系)	13	1600字程度(推測)	125字前後(推測)	▶カナダでサマータイムが実施される理由を答える。▶カナダの森林分布図をもとに、図中のサ地域(太平洋岸北部)で高緯度にもかかわらず森林が分布する理由と、シ地域(南部の内陸)で低緯度にもかかわらず森林が分布しない理由を、それぞれ気候条件と関連づけながら説明。▶カナダの州・準州別にみた家庭言語の人口割合を示す図をもとに、カナダにおける家庭言語の地理的分布とその背景を説明。▶カナダの北極海沿岸からグリーンランドにかけて暮らす民族の名称を答え、彼らの伝統的な生活文化(衣食住)について説明。▶1923年の関東大震災によって被災した地域を対象にした震災復興区画整理地区の地図、地図中の線に沿った地形断面図、市街地の拡大過程の地図を見て、関東大震災で被害が大きかった地域の分布とその背景を述べる。▶東京都が区部の町丁目別に調査した現在の震災危険度を示した地図で、建物倒壊危険度と火災危険度の分布の相違点を述べた上で、なぜそのような違いが生じるかを前問の図を参考に述べる。▶地形図読図[地理院地図(広島県安芸郡坂町)に示された自然災害伝承碑について、そこで発生した自然災害を答え、そのように判断した理由を述べる]。▶南海トラフ巨大地震の被害想定を府県別に示した表から、建物被害想定規模や内訳からみた府県の被害の特徴を読み取りその背景を述べる。▶洪水ハザードマップに記載されている情報と発災時に備えた使い方を述べる。▶日本周辺の海域に関する概念図をもとに、図中のC(排他的経済水域)に関して小笠原諸島のもつ重要性について説明。▶小笠原村と日本全国の人口ピラミッドをもとに、小笠原村の人口ピラミッドが日本全国と大きく異なる点を3つ挙げ、それぞれ異なる理由を述べる。▶小笠原村と日本全国の産業別就業者数とその割合を示した表をもとに、小笠原村の産業別就業者数の割合が日本全国と大きく異なる点を、第1次産業、第2次産業、第3次産業からそれぞれ1つずつ挙げ、それぞれ異なる理由を述べる。▶2019年2月26日～4月2日の父島における水道水の使用量の変化を示した図で周期的な変化がみられる理由について、これまでに問題で示した図表に言及しながら説明。
東京都立大学(理系)	14	1600字程度(推測)	120字前後(推測)	▶3つの雨温図に該当する地点を地図中から選び、そのように判断した理由を述べる。▶日本での黄砂の月別観測日数のグラフをもとに、日本への黄砂の飛来は春に多く発生し、秋から冬にはあまり発生していない理由を述べる。▶地図中の海岸砂漠(ナミブ砂漠、アタカマ砂漠)の位置をもとに、これらの地域に海岸砂漠ができる共通の理由を述べる。▶地図中に示された黒海北部から西シベリア南部にかけて分布する成帯土壌の名称を答え、その成因についてまとめた文の空欄に当てはまる文を答える。▶乾燥地・半乾燥地の「外来河川」と「ワジ(涸れ川)」のそれぞれの特徴を述べる。▶世界のいくつかの地域の小麦産地を作物と収穫の時期によって3つのタイプに分けた栽培層で、それぞれのタイプが春小麦、冬小麦のいずれかを判断した上で、それぞれの作物と収穫の時期の決定に自然条件がどのように影響しているかを述べる。▶小麦の栽培層の図を参考に、小麦の収穫時期が地域によって異なることの貿易上の利点を述べる。▶稲の栽培方法を、①灌漑を使う水稲、②灌漑を使わない水稲、③陸稲に分け、それぞれの栽培方法の特徴を自然条件と関連づけて述べる。▶アジアとアフリカでの米の生産量と輸入量の多い上位8か国を示した表から読み取れることを述べる。▶アメリカ合衆国の米、小麦、とうもろこしの生産地域をおおまかに示した図から、とうもろこしの生産地域の特徴を、米、小麦と比較しながら、自然条件に関連づけて述べる。▶とうもろこしの用途が米や小麦の用途とどのように異なっているかを具体的に述べる。▶地形図読図[地理院地図(ガラ湯沢スキー場)で、ゴンドラの上麓駅と山頂駅の標高差を答え、そう判断した理由を説明/この地方にスキー場が多い理由を人文条件から説明/この地方にスキー場が多い理由と、山頂付近にスキー場が作られた理由を自然条件から説明]。